

### 1. 知ってもらおう(外国人に「日本」をよく知ってもらい、「行きたい」きっかけをつくる)

【主な課題】

- 日本の浸透度が低い (例)韓流ブームとの比較
- 観光庁・JNTO単独の取組の限界
- 民間のアイデア、個人による口コミ等の活用が不十分



【当面講ずべき措置】

- クールジャパンと一体となった日本ブランド発信
- オールジャパン体制による連携の強化・拡大
- オープンスカイ施策と戦略的に連動させた効果的な訪日プロモーションの展開
- 影響力ある個人や先進的な民間アイデアの活用
- 送客元の多様化

### 2. 来てもらう(「行きたい」と思った外国人に、実際に日本に来てもらう)

【主な課題】

- 「行きたい」と思っても手続きが煩雑で時間がかかる
- 日本への旅行費用が高い



【当面講ずべき措置】

- ビザの要件緩和
- 首都圏空港の機能強化
- LCC及びビジネスジェットの参入促進
- 低廉な宿泊施設の周知

### 3. 満足してもらおう(リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる)

【主な課題】

- 到着時に入国手続きで待たされる
- 空港からのアクセスが不便
- 旅行にあたっての外国人ならではの不便が存在
- 観光地等における外国語表記が未整備、あるいは内容が分かりづらい
- 地域資源を活かした魅力づくりができていない



【当面講ずべき措置】

- 出入国手続きの迅速化・円滑化
- 交通モードを通じた快適・円滑な移動のための環境整備
- 空港アクセスの改善
- 外国語案内表示等の充実
- 地域資源のポテンシャルの最大化
- インフラプロジェクトと連動した観光振興

### 4. 人と知恵、更には投資を惹きつける(国際会議等の誘致や投資の促進を図ることにより、多くの人や優れた知見を日本に呼び込む)

【主な課題】

- 近年、アジア地域における我が国の国際会議の開催シェアが低下
- 都市のMICE誘致能力・体制の強化や魅力の向上が必須



【当面講ずべき措置】

- グローバルレベルのMICE都市の育成
- 国を挙げたオールジャパンの誘致体制の構築
- 文化施設・公共空間等を利用したイベントの活性化
- 日本貿易振興機構(JETRO)とも協働して訪日や対日投資を促進

# 1. 知ってもらおう(外国人に「日本」をよく知ってもらい、「行きたい」きっかけをつくる)①

## 【主な課題】

- 日本の浸透度が低い。例)韓流ブームとの比較
- 観光庁・JNTO単独の取組の限界。
- 民間のアイデア、個人による口コミ等の活用が不十分。
- 競合国と差別化された日本ブランドの構築が必要。
- 外的要因(震災や外交関係等)の影響を受けやすい。

## 【当面講ずべき措置】

(ビジット・ジャパン事業10周年を迎えてのステップアップ)

- クールジャパンと一体となった日本ブランド発信
  - ・「ビジットジャパン」「クールジャパン」等を連携させ、日本ブランド発信を計画的・集中的に展開し、日本ブームを創出する。
  - ・テレビCM枠を確保するなど、積極的な映像プロモーションを推進。
  - ・統一的なイメージの発信。
- オールジャパン体制による連携の強化・拡大
  - ・観光庁・JNTOに加え、在外公館をはじめとする関係省庁、JETRO、海外進出企業等が計画的に連携し、オールジャパン体制による訪日プロモーションの強化・拡大。
  - ・幅広い国土交通省所管分野に協力を要請。
  - ・JNTOの体制強化。
- 影響力ある個人や先進的な民間アイデアの活用
  - ・個人を活用したプロモーションの展開(SNSの活用による口コミ等)。
  - ・民間の活力やアイデアを積極的に活用。
  - ・刷新した映像コンテンツ(DISCOVER the SPIRIT of JAPAN)の活用。
- 送客元の多様化
  - ・多様な国からの誘致強化(東南アジアからの誘客等)。
  - ・個人・ビジネス旅行の促進、MICE誘致促進。
- ビジット・ジャパン現地推進会の積極的な活用
- オープンスカイ施策と戦略的に連動させた効果的な訪日プロモーションの展開
- 「あなたの観光コンシェルジェ」プロジェクト
  - ・業務で会った外国人(政府職員等)に対して、個人的に訪日観光を勧める。
- 道産品輸出拡大と併せた観光情報を発信

## 2. 来てもらう(「行きたい」と思った外国人に、実際に日本に来てもらう)

### 【主な課題】

- 「行きたい」と思っても手続きが煩雑で時間がかかる。
- 日本までの旅行費用が高い。
- 物価・料金が安い。
- 安く泊まれる簡易宿泊施設の増設とその情報がほしい。予約するのが難しい。

### 【当面講ずべき措置】

#### ○ビザ要件の緩和

#### ○首都圏空港の機能強化

- ・羽田空港・成田空港の発着容量の増加。
- ・羽田空港における深夜早朝時間帯の利便性向上。
- ・成田空港におけるオープンスカイ実現と料金施策。

#### ○LCC及びビジネスジェットの参入促進

- ・LCCの受入環境整備。
- 空港使用料の引き下げ
- LCCターミナルの整備
- 訪日旅客増加に向けたプロモーション
- ・ビジネスジェットの受入環境整備。

#### ○低廉な宿泊施設の周知

- ・宿泊サイトの周知。
- ・情報サイトにアクセスしやすい環境整備、各種サービスの有無についての情報提供のための仕組みを導入。

#### ○クルーズの振興

- ・官民連携したクルーズの誘致促進。
- ・外国クルーズ船に対応したワンストップ窓口の設置。
- ・ハード面の環境整備(旅客船ターミナルの整備、防波堤の整備等)。

### 3. 満足してもらおう(リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる)①

#### (1) 出入国手続の改善

##### 【主な課題】

- クルーズ船の乗客の上陸時の入国審査手続に多くの時間がかかる。
- 空港での出入国手続に時間がかかる。

##### 【当面講ずべき措置】

- 出入国手続の迅速化・円滑化

#### (2) 移動しやすい環境の整備

##### 【主な課題】

- 交通運賃や観光地へのチケットが高くつく。
- 横断的に使えるパスがほしい。
- 交通機関が複雑で包括的な情報が分からない。
- 言葉が通じない。交通機関・駅、買物、飲食施設、宿泊施設、案内所やレンタカー利用時に言葉が通じず不便を感じるケースがある。
- 空港からのアクセスが不便。

##### 【当面講ずべき措置】

- 交通モードを通じた快適・円滑な移動のための環境整備
  - ・関係部局が連携しながら各事業者と意見交換会を実施。
  - ・意見交換会で得られた方策等について、JNTO等を通じて積極的に情報発信を実施。
- バス・タクシー等を活用したインバウンド観光の促進
  - ・空港アクセスバスの使いやすさの改善。
  - ・バス・タクシー・レンタカーへの誘導の強化。
  - ・車内での円滑な意思疎通の確保。
  - ・外国人向けバスツアー・観光タクシーのメニューやコースの充実。
- 空港アクセスの改善
  - ・「都心-空港-郊外直結鉄道(都心直結線)」の検討。
  - ・羽田空港の深夜早朝時間帯のアクセス改善の検討。(再掲)

### 3. 満足してもらおう(リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる)②

#### (2) 移動しやすい環境の整備

- 観光地内を周遊するための移動手段が充実していない。
- 日本の宅配便運送サービスの信頼性・利便性が浸透しておらず、訪日外国人旅行者の多くが自分で荷物を持って日本国内を移動している。

- 観光立国を支える地域公共交通関連施策の展開
  - ・地域公共交通確保維持に向けた取組(バス路線等の確保・維持等)、地域鉄道の再生活活性化策の確立。
  - ・DMV(デュアル・モード・ビークル)の導入促進、電気自動車(電気バス・電気タクシー)・超小型モビリティの導入促進。

- 宅配便運送サービスを利用した「手ぶら観光」の促進
  - ・「手ぶら観光」の促進に関する検討会の立ち上げ。
  - ・検討会での検討及び改善を踏まえ、日本の宅配便運送サービスの質の高さ、利用方法等について情報発信。

#### (3) 滞在しやすい環境の整備

##### 【主な課題】

- 宿泊施設の施設・サービス水準が外国人旅行者にとってわかりにくい。

- 観光案内所への案内板、駅構内、路上、観光地等での案内板不足。案内板があっても日本語表記のみで読めない。
- 標識、地図等の不備で案内所が見つけられない。

##### 【当面講ずべき措置】

- 観光産業のレベルアップ
  - ・ツアーオペレーター認証制度の導入・充実。
  - ・無料公衆無線LAN、外国語放送等の整備。
  - ・宿泊施設の情報提供制度の普及。

- 観光案内所のネットワーク化と周知

- 道の駅、SA・PAの観光機能の強化
  - ・「道の駅」での観光等情報提供の内容充実。
  - ・SA・PAにおける観光情報の提供箇所の拡大・内容の充実。

### 3. 満足してもらおう(リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる)③

#### (3) 滞在しやすい環境の整備

##### 【主な課題】

- 路上での道路名や道路標識がないため、道に迷う。
- 地図が分かりづらい。
- 交通機関、飲食施設、宿泊施設等で言葉の不便を感じる人が多い。

○文化や生活習慣の異なる旅行者の受入体制が充実していない。

○海外で発行されたクレジットカードでのキャッシングが不便。

○クレジットカード決済ができる施設が少ない。

##### 【当面講ずべき措置】

###### ○外国語案内表示等の充実

- ・公共交通機関、道路における案内表示の外国語表記等の促進。

###### ○地図データを活用した観光振興

- ・各機関による地図整備や情報発信の取組について、国土地理院が情報提供や技術支援を実施。
- ・地理空間(G空間)情報を活用したサービスモデルの検討。

###### ○ICTを活用した歩行者移動支援の取組

- ・スマートフォン等を通じたバリアフリー経路案内、観光・イベント情報や各種施設情報などの提供。

###### ○不動産関係事業者との協議会の設置

- ・「観光立国推進のための不動産関係業者協議会(仮称)」を設置し、訪日外国人旅行者が多く利用するアウトレットモール等の商業施設やホテル等の施設における多言語表示等の取組を促進。

###### ○気象情報の利活用推進

- ・気象庁による英語版ホームページの運営と訪日外国人旅行者向けWebページからのリンクを推進。
- ・気象庁による観光業界との意見交換を実施。

###### ○ムスリム旅行者への対応

- ・ムスリム対応についての情報発信。
- ・ムスリム向け受入環境整備の促進やサービス提供事業者の参入拡大。

###### ○海外発行クレジットカードを利用可能なATMの情報周知

### 3. 満足してもらおう(リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる)④

#### (4) 魅力ある観光地域づくり

##### 【主な課題】

- 地域資源を活かした魅力づくりができていない。
- ゴールデンルート以外のエリアをメインとした新たな観光ルートの開拓が必要。
- 地域のポテンシャルを活かした旅行商品造成や人材の育成が必要。
- 訪日外国人旅行者は、日本の歴史的・伝統的な街並みや都市の景観等に対する関心が高い。

##### 【当面講ずべき措置】

##### ○地域の観光ポテンシャルの最大化

- ・日本政府観光局(JNTO)による地域の観光資源の海外展開。
- ・目利きを活用した資源の磨き上げ、新ビジネスの育成。

##### ○インフラツーリズムの推進等

- ・世界に誇るべき先進的な建築物、特徴あるインフラ施設等を観光資源として活用。
- ・国土交通省所管の公物等について、国際会議等の開催におけるユニークベニューとして活用。

##### ○インフラプロジェクトと連動した観光振興

- ・「インフラ整備等と一体となった観光振興連絡調整会議(仮称)」の設置。

##### ○大都市圏の国際競争力の強化

- ・首都圏空港の機能強化、空港アクセスの改善、都市再生の推進、国際会議誘致等、関連施策の有機的連携。

##### ○景観の改善

- ・「日本風景街道」の取組における修景・緑化。
- ・道路における無電柱化の推進。

##### ○地域の魅力を活かした観光まちづくり

- ・温泉、歴史等の観光をテーマとして、地域の観光資源等を活かしつつ、まちづくりに必要な事業を総合的に推進。

### 3. 満足してもらおう(リピーターとして訪れたい、周りの人に訪日を勧めたい、と強く思わせる)⑤

#### (4) 魅力ある観光地域づくり

##### 【主な課題】(再掲)

- 地域資源を活かした魅力づくりができていない。
- ゴールデンルート以外のエリアをメインとした新たな観光ルートの開拓が必要。
- 地域のポテンシャルを活かした旅行商品造成や人材の育成が必要。
- 訪日外国人旅行者は、日本の歴史的・伝統的な街並みや都市の景観等に対する関心が高い。

##### 【当面講ずべき措置】

- 街並み環境の整備と観光振興の連携強化
  - ・街なみ環境の整備改善事業等の実施、魅力ある観光地域づくりのモデルとなる取組事例の蓄積。
  - ・観光庁の主催する会議等の活用による事例・手法の周知。
- 河川空間を利用したまちのにぎわいの創出
- 海洋観光の振興
  - ・海洋観光の魅力発掘・発信、認知度向上(国内外への広報、シンポジウムの開催等)。
  - ・新たな海洋観光ルートの開発・検証等。
- 離島活性化交付金の積極的活用
  - ・新たに創設した離島活性化交付金を活用し、離島の観光の推進等の取組を支援。
- フェリーの利用促進
  - ・既存フェリーを活用したツアーの造成等による新しい観光魅力の発掘。
  - ・地域固有の観光資源や食材等、地域の魅力を活かしたプロモーションの実施。
  - ・フェリー事業者と地方自治体等、地域との連携強化。
- レンタサイクルの利用促進
  - ・自転車通行空間の整備。
  - ・歩道等の道路空間でのレンタサイクルの駐車場等の確保。



#### 4. 人と知恵、更には投資を惹きつける(国際会議等の誘致や投資の促進を図ることにより、多くの人や優れた知見を日本に呼び込む)

##### 【主な課題】

○誘致競争が激化し、アジア地域に於ける我が国の国際会議開催シェアが低下。

○誘致支援の主体である都市のMICE誘致能力・体制の強化や魅力の向上が必須。

○ビジネスマン・研究者を我が国に呼び込むツールとして認識が不足しており、誘致主体となる大学・学会や産業界との連携が不十分。

○国際会議参加者へのおもてなしなど、MICE受入環境の整備・充実が必要。

##### 【当面講ずべき措置】

- グローバルレベルのMICE都市の育成
  - ・「グローバルMICE戦略都市」を選定し、国が集中的に支援するとともに都市の自律的取組を促し、グローバルな誘致競争に打ち勝つ都市を育成。
- 国や都市の戦略実現ツールとしてのMICEの活用
  - ・国や都市の戦略的ツールとして国際会議等のMICEを位置づけ。
  - ・世界のビジネス／科学技術をリードする人や情報を世界から集め、ビジネス振興・イノベーション創造等を推進。
- 国を挙げたオールジャパンの誘致体制の構築
  - ・各省所管分野での積極的なMICE誘致。
  - ・国土交通省所管分野を通じた積極的誘致を推進。このため、誘致可能性のある会議案件のリストアップ、省内相談窓口の設置等を実施。
- 大学、産業界等との連携
  - ・大学、産業界等の有力者をMICEアンバサダーに任命し、各種誘致活動の支援体制を構築。
  - ・多忙で国際会議誘致に取り組みづらい研究者に対するサポート環境を整備。
- 文化施設・公共空間等を利用したイベントの活性化(ユニークベニュー整備)
  - ・文化施設・公共空間での会議のレセプションの開催等、海外に比べて後れている我が国のユニークベニュー利用を促進。
  - ・国交省所管の施設等を積極的に活用。
- 運輸事業者との連携
  - ・JNTOやコンベンションビューローと運輸事業者の連携を促進し、会議主催者の事前視察への共同対応や会議参加者に対する商品造成等を進める。
- ミーティング・インセンティブ誘致の推進
  - ・企業が主催するミーティングやインセンティブ(報奨)旅行を我が国に誘致するため、各種プロモーションを実施。
- MICE開催地としての都市機能強化
  - ・海外に後れをとる会議関連施設や宿泊施設等について、各種取組の検討を行うと共に、関係者への働きかけを実施。
- 日本貿易振興機構(JETRO)と協働して日本への訪日、投資を促進